

1 本年度の重点目標

- 1 生徒の手本となる職員集団の形成と校訓の実践
- 2 全職員で全生徒を指導
- 3 学力向上の取り組みの強化
- 4 特色ある教育活動の積極的推進と校内連携の強化
- 5 生徒の進路意識を向上させる進路指導
- 6 積極的な部活動の推進

2 自己評価結果に対する学校関係者評価

A 達成している B おおよそ達成している C あまり達成していない D 達成していない

評価分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		自己評価結果	改善の方策	学校関係者評価	改善策の適切さ
特色ある教育活動	① 学科間連携について	B	他学科の専門分野に関する資格取得は、一定の成果を挙げたものの、一部の生徒には興味関心を持つことなく終了したものもいるので安易な選択にならないようオリエンテーションを充実させる。	B	B
	② 地域連携について	A	学校設定科目「産業基礎」は今年度同様に実施する。3年「起業実践」については、次年度から開講される科目である。パートナーシップ会議の提言を具現化していきたい。	A	A
	③ 校内の連携体制について	B	キャリアインターンシップ等は進路指導部との連携でスムーズに運営できた。2年修学旅行時の県外企業見学でより一層の連携が必要である。特色ある教育活動の年次計画を部分掌で一層の共有化を図る。	B	A
学校関係者評価委員会における意見	学科間連携、教科間連携は、授業評価結果をみるともっと必要であると感じた。地域連携は概ねできていると感じるが、学校近隣にはたくさんの素晴らしい農家があるので、先生方ができない部分をもっと頼って良いと思う。もう一段高いところで連携が可能であろう。				
学習指導	① 学習規律の確立と基礎学力の定着及び個性を生かす教育実践について	C	年度当初は、授業の中抜けも多く見られた。授業の開始時刻の巡回指導と授業担当教員が行うベル着指導を徹底させたい。基礎学力の定着とともに成績上位者へ目を向けた指導を充実させる。	C	C
	② 多様な生徒への評価方法の研究について	B	各教科で指導と評価の工夫をした結果、前年度に比べ、学科間の評価平均点の差は是正された。研究授業のテーマを明確にして、指導の工夫と適切な観点別評価の研究を引き続き行う。	B	B
	③ 効果的な授業展開の実践について	B	曜日による授業時数の偏りを是正するため、可能な限りの授業変更を行い授業時数の確保が行われた。次年度も月曜日の授業時数が少ないため曜日変更を行うなど適切に授業展開ができるよう計画する。	B	B
学校関係者評価委員会における意見	授業中に中抜けをする生徒がいると報告されたが、一斉指導では指導が難しい生徒については、授業の欠課時数を生徒及び保護者に示し、卒業後の見通しまで立てて計画的に個に応じた指導を行った方が良い。大変な生徒の実態を見ると家庭環境や義務教育段階の指導の結果として現れているのだと思うが、一方では学が意欲の高い生徒を伸ばす指導にも力を入れて学力向上を目指して欲しい。				
生徒指導	① 挨拶の励行、身だしなみ指導、遅刻指導の徹底について	B	指導の観点を共有すべく、毎月の学校生活目標を設定してきた。十分達成できたという評価は難しいが、教員の取り組みに対しては評価できる。次年度も粘り強く積極的な生徒指導を目指す。	B	B
	② 関係機関との連携、交通安全に関する安全教室・講習会の実施について	B	今年度も交通事故、交通関係特別指導を根絶できなかったが、次年度も継続して、警察、地元自動車学校の協力を得ながら交通安全に対する意識の高揚、命の大切さについて指導を行う。	B	B
	③ 部活動、生徒会活動の活性化について	C	部活動自体は概ね良好であるが、加入率は低迷している。次年度は1学年のアルバイト規程を見直し、部活に集中できる環境を整えたい。また、生徒会活動も2大行事を成功させるなど生徒会役員の活躍は目覚ましい。全校的な活性化を図るためには、個々の生徒に主体的なかかわりを持たせることが大切である。一部の生徒に偏ることなくクラス・部活動等様々なかかわりを持たせたい。	C	B
学校関係者評価委員会における意見	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒に対し命の大切さについての指導の一環として、交通事故防止や交通マナーの啓発についての報告があったが、送迎を行う保護者の交通マナーアップも必要ではないかを感じる。 ・来年度は、統合再編して3年目となり、生徒・教員の意識のギャップがなくなり一体感が増すと思う。校歌を大声で歌える学校を目指して欲しい。 ・アルバイト規程を見直し、部活動に集中させる環境を整えるのであれば、学校の指導方針を登米市経営者協会にも周知し、雇用側の協力を得た方が良いと思う。 ・いじめ問題への対応は、まず担任が一番である。担任をフォローする環境作りが大切だと思う。 				

3 次年度の課題と改善方策

次年度の課題	改善方策
① 地域連携について	3年「起業実践」については、次年度から開講される科目である。登米地域の様々な産業の方々に「起業実践」の地域協力者として指導いただくなど、登米地域パートナーシップ会議の提言を具現化していきたい。
② 学習規律の確立	授業の開始時刻の巡回指導と授業担当教員が行うベル着指導を徹底させたい。基礎学力の定着とともに成績上位者へ目を向けた指導を充実させる。
③ 部活動、生徒会活動の活性化について	次年度は1学年のアルバイト規程を見直し、部活に集中できる環境を整えることで部活動加入率の向上を図る。また、登米市経営者協会にも本校指導方針を周知し協力いただく。学校行事を実行委員会や生徒会役員などの一部の生徒に偏ることなく、全校生徒がかかわりを持てるよう、HR単位、部活動単位の取り組みに発展させるよう工夫をする。